

平成30年度 多摩市交通安全対策会議 要点録

1 開催日時

平成30年10月16日（火）16:00～17:00

2 開催場所

多摩市役所特別会議室

3 出席者 6名

- 会長 阿部裕行（多摩市長）
- 委員 小松正明（東京都南多摩東部建設事務所長）
- 委員 齊藤靖（警視庁多摩中央署長）
（代理 高山交通課長）
- 委員 志村光明（多摩稲城交通安全協会会長）
- 委員 清水哲也（多摩市教育委員会教育長）
（代理 伊野学校支援課長）
- 委員 森田佳宏（多摩市都市整備部長）

事務局 渡邊 淳二（多摩市都市整備部交通対策担当課長）外2名

欠席者 1名

4 会議要点録

（1）会長開会の挨拶（会長）

- ・ 多摩市では、交通安全対策基本法第18条1項に基づき、多摩市交通安全対策会議を設置。多摩市内の交通安全の実施と推進の為、各関係機関・事業者と連携・協力している。
- ・ 多摩市内に交通事故死亡者がいない・交通事故が無い社会を実現する為、日頃より第10次交通安全計画の着実な推進にご協力に感謝を申し上げる。

（2）議題

- ① 議題1 第10次多摩市交通安全計画に基づく平成29年度事業の実施状況について

1. 東京都南多摩東部建設事務所（小松委員）

（平成29年度の取組）

歩道の整備におけるバリアフリー化の実施

電線共同溝整備

- ・永山駅付近の東側において埋設業者の支庁移設工事と本体工事を実施
- ・電線共同溝整備に伴う歩道舗装の復旧工事を多摩NT通りで実施し、歩道の段差解消や勾配の改善を行う。（多摩療育センター入り口交差点～新乞田大橋交差点手前までの北側における電線共同溝整備事業は、一連の計画が完了。）

道路改修

- ・車道四車線化を実現する為、南多摩尾根幹線道路の都市計画変更に伴わない唐木田区間において、道路改修工事を実施中。

安全施設等の整備

- ・LED化による照明改修を、多摩モノレール通りの山王隧道で実施中。

道路標識

- ・通称名表示を充実・視認性の向上等整備を川崎街道で実施。

区画線の整備

- ・多摩市内の道路の白線の引き直し。
- ・地元住民の要望もあり旧鎌倉街道の一部にグリーンベルトを設置。

（今年度の所管事業の報告）

車線増設に関する工事

- ・新大栗橋交差点の下り車線の増設の為、改良工事を今年度末以降発注予定。

電線共同溝工事

- ・永山駅西側の本体工事と東側の道路照明及び委託工事を実施中。
- ・鎌倉街道の諏訪下橋交差点～新大栗橋までの区間について、今年度は諏訪下橋から順じ本体工事に着手予定。

2. 多摩中央警察署（高山委員代理）

高齢者の交通安全の確保

- ・多摩センター駅前等で、反射材の貼付活動及び高齢者の保護誘導活動を実施。
- ・民生委員の連絡協議会に依頼し、高齢者宅への訪問時にチラシの配布や反射材の貼付活動を協力してもらい、事故防止を図る。
- ・多摩郵便局に協力を依頼し、反射材の効力を活かしたかもめーるを高齢者宅に郵送し、高齢者事故防止の啓発活動を実施。

運転免許証の自主返納

- ・多摩中央警察署での運転免許証の自主返納者数は、警視庁全警察署103署中10

番目の成果を挙げた。(平成30年度9月末現在)

- ・認知症で免許取り消しとなった75歳の男性が、多摩中央署管内を無免許で車の運転をしていた。(免許証を返したから安全とは言い切れず、家族が鍵の管理方法を見直す等の対策が必要。)

二輪車の事故の防止

- ・多摩大学・国士舘大学を二輪車のモデル校として二輪車の安全教育の充実を図った。
- ・新大栗橋交差点を二輪車の安全モデル交差点として、白バイ等の集中的な取り組みや二輪車STOP作戦等を実施、事故防止を図った。

自転車に関する交通安全対策

- ・出前型安全教育の実施。
- ・子ども自転車東京大会に、多摩市立第2小学校の生徒が出場。子供達の事故防止への意識の向上に努めた。
- ・中学生に対し多摩市実施のスケアードストレートで出前型の安全講習等を積極的に行い、事故防止を図った。
- ・市道での取り締まりが1件。(自転車走行中信号無視をして歩行者に危険を与えたとして)

飲酒運転事故

- ・多摩中央署管内で飲酒が原因となる死亡事故は発生していない。
- ・今年警視庁管内の飲酒に絡む死亡事故が顕著である。取り締まりも含め飲酒事故を無くしていくことに向けて取り組んでいる。

3. 多摩稲城交通安全協会(志村委員)

2020年に向けて

- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、「世界一安全な都市、東京」実現の為に活動した。

交通安全の周知徹底

- ・各事業所に対して安全運転講習会の実施。
- ・多摩中央署と協力し講習会を開催。
- ・少年団が交通安全運動・パレード等で活動した。
- ・女性部会は多摩市と協力し駅前等で定期的な交通安全等キャンペーン活動を実施。
- ・1件でも事故を減らす為、交通ルール・マナーの向上の周知を徹底しながら活動中。

キャラクターとの交通安全キャンペーン活動

- ・交通安全パレードや春・秋の交通安全運動ではハローキティに協力頂いた。
- ・東京ヴェルディ1969とそのチームの選手が多摩センター駅等で交通安全キャンペーンの協力を頂き、交通安全意識の向上を図った。

4. 多摩市教育委員会(伊野委員代理)

平成29年度の取組

- ・児童生徒の通学路上の安全確保の為、関係課・機関に協力を依頼。通学路の総合的な点検を実施。
- ・地域・保護者の意見・要望から情報を整理し、実際に点検を実施。対応策等を検討・実施し、状況によって関係機関への要望を行った。

平成29年度実績

- ・要望件数：61件
- ・対応件数：45件

(公社) シルバー人材センターへの委託

- ・通学路の危険箇所には通学路安全整理業務従事者を配置。通学路安全整理業務従事者は業務の効率化の為、(公社) シルバー人材センターに委託している。

5. 多摩市役所 (森田委員)

高齢者の交通安全の確保

- ・誰もが利用しやすい公共交通再編の為、道路交通環境整備の取組を実施。
- ・乞田・愛宕地区対象にNT通りでバスの社会実験を実施。(1日8往復3ヶ月間)
- ・1便あたりの乗客が約3名となり、通常運行を実現するには厳しい結果となった。
- ・今年度は乞田・愛宕地域の交通動態の確認も含めた、タクシーの実証実験を実施。
- ・6月～8月にかけて3ヶ月間・タクシー事業者3社の協力の元で行い、集計途中であるが発券人数は613名。

駐輪場対策

- ・駐輪場の改修等を随時実施中。

放置自転車対策

- ・撤去自転車の量は年々減少。平日のみ撤去作業を実施してきたが、今年度から土曜日も撤去作業を開始。平日だけでなく、土曜日・日曜日も放置自転車のない交通環境に今後も取り組む予定。

運転免許証の自主返納

- ・運転免許証の自主返納制度の支援と返納に向け、周知活動を行った。

道路整備に関すること

- ・生活道路、幹線道路、自転車歩行者専用道路で劣化した舗装の打ち換えを実施。
- ・歩道の整備、横断歩道の改善、道路照明の整備を実施。

道路照明・街路灯

- ・LED化の推進を実施。
- ・多摩市内の街路灯10778基中9593基をLED化。
- ・LED化率は89%、街路灯は100%省エネ灯具。

バリアフリー化

- ・交差点改良と視覚障害者誘導ブロックの整備を実施。

6. 東京消防庁多摩消防署（事務局）

消防署建替え作業

- ・今年2月から消防署建替えによる仮庁舎の運用が開始。新庁舎を建設中で、平成32年6月下旬に運用開始予定。

救急活動

- ・前年度比で298件（約4%）増加。

交通災害での出動件数

- ・前年度比で件数が約2割減少。

7. 小田急電鉄株式会社（事務局）

バリアフリー化

- ・平成29年度は「安全かつバリアフリー化」を芯に取り組む。
- ・エレベーターの設置及び多機能トイレの設置については整備済。今後も状況に応じた整備を実施予定。
- ・2編成10両の特急車両をバリアフリー化。2編成10両の一般車両を低騒音化。

落橋工事

- ・安全対策を図る為、小田急永山駅・小田急多摩センター駅間で1箇所落橋工事を実施。

ダイヤ改正

- ・ダイヤ改正を実施、利便性が向上した。

8. 京王電鉄株式会社（事務局）

バリアフリー化

- ・車両改修工事の入れ替え等に合わせて、車椅子・ベビーカーも利用しやすいスペースを各車両に増設。

鋼管柱への更新

- ・コンクリート製の電力柱から耐震性の高い鋼管柱への更新を順次実施。

利便性の向上

- ・利便性向上の為、通勤者の帰宅時間等に合わせて京王ライナーを導入。
- ・京王相模原線について、特急運行による時間の短縮及び運賃の値下げを実施。

9. 神奈川中央交通（事務局）

低床バス・ノンステップバスの新規導入。

円滑な乗降に役立てる為、車外スピーカーの活用

1 0. 京王電鉄バス株式会社及び京王バス南株式会社（事務局）

京王線のダイヤ改正に伴う電車とバスの接続改善を実施。

低公害車両の導入促進及び運行中アイドリングストップを実施。

1 1. 多摩都市モノレール株式会社（事務局）

施設の保安への注力に関する取組の実施。

乗務員・社員を対象に緊急時における救助救急を想定した訓練を実施。

1 2. 質疑応答

特になし

② 議題2 平成29年交通事故状況等について（高山委員代理）

平成29年交通事故状況

- ・多摩中央署管内では死者数マイナス2、発生件数・死傷者数は共に増加。
- ・警視庁管内は死者数164名（昨年比プラス5名）。発生負傷者数は平成12年から年々減少傾向であった。
- ・死亡事故は歩行中に発生することが多く、特に高齢者が顕著であった。歩行者側に違反がある場合が6割。4割は違反行為もせず青信号を渡った歩行者が巻き込まれている。
- ・発生負傷者数の増加の原因は、保険制度の周知の対策により、今まで届出されることが少なかった単独の自転車の転倒事故等も届出が出るようになったことが推定される。

平成30年交通事故状況

- ・今年9月末現在で、死者数は減少し97人（前年比マイナス22）、発生件数はプラス160件、死傷者数はマイナス191人となっている。
- ・今年管内での死亡事故は2件（±0）
- ・二輪車事故が今年増加。最近の傾向としては、30～40代の方による通勤途中の事故が増加している。

交通事故防止に向けた取り組み

- ・高齢者に関する交通事故の対策として、横断歩行者の取り締まりと横断歩道での歩行者優先の指導を実施。今年9月現在で高齢者が関与している事故が多摩市で32.5%、昨年9月は31.8%で増加した。訪問活動を行いながら家族で対策をとるように呼掛けている。
- ・二輪車の交通事故の対策として、幹線道路で通勤・通学途中の二輪車に停止を協力を求め、その際にプロテクター着用呼掛け等の啓発活動を行う、二輪車STOP作戦等を実施。

- ・ 飲酒運転事故の対策として、警視庁全庁で統計を駆使し対策を検討、検問等を実施。
- ・ 東京ドライブトレーニング（警視庁が実施している有料講習）を周知徹底に努めた。
- ・ 自主返納については、高齢者運転免許自主返納サポート協議会で、京王グループがサービス協力に参加した。自主返納した方へのサービスの充実を図っており、協力している企業の店舗等で運転経歴証明書を見せると割引などが受けることができるサービスである。

③ 議題3 その他情報交換

- ・ 東京ドライブトレーニングについて、年齢や金額・時間等の詳細な説明を（会長）
- ・ 年齢は無制限、金額が4～8000円、時間は1～4時間。免許返納したくない高齢者ドライバーはまだ多い。（高山委員代理）
- ・ 安心して運転免許の自主返納しやすくする為、東京ドライブトレーニングの周知徹底及び運転免許自主返納後のサポートの充実・推進が必要。（志村委員）
- ・ 運転免許の自主返納後のサービスについて更なる詳細な説明を（会長）
- ・ 運転経歴証明書を見せれば毎回サービスを受けることが可能。今後は更なる利便性の向上の為、商店会レベルでの加入の呼掛けを実施予定。（事務局）
- ・ 記載されているタクシー乗車10%割引のような運転免許証返納後の代替的な交通手段となるサービスの普及が必要。（志村委員）
- ・ 昨年度多摩市交通マスタープランの改訂版を作成。本年度から交通不便地域の具体的な解消に向けて実施計画策定に取り組み、地域住民の要望・アイディアの提案等を傾聴する為、市内を8つのエリアに分けて各地域でオープンハウスとワークショップを実施中。（事務局）
- ・ 自動運転技術に関して、豊ヶ丘4丁目～スーパー三徳（貝取）間のルートを、神奈川中央交通株式会社とSBモバイル株式会社が協力し、東京都の事業で自動運転技術が搭載されたバスが平成31年2月末までに走行予定。（事務局）

(3) 会長閉会の挨拶（会長）

- ・ 各課・各関係機関の支援・協力の元、市内での年間交通事故死亡者0人が目標。
- ・ 運転免許証の自主返納の呼びかけ・制度の支援・周知等の取組を積極的に取り組む。
- ・ 運転免許証の自主返納のような交通事故に結びつくことに対策を講じる事を評価する。